

よび平壤高等普通学校が1911年に設立され、それ以降各道に設置されていった。そして1924年に江原道（春川高等普通学校）および忠清北道（清州高等普通学校）に設置されることにより、朝鮮13道すべてに官立高等普通学校が設置されることになった。なお、これら官立の高等普通学校は1925年度にすべて公立化し、以後運営された。1937年までには、16校が設置され、京畿道、慶尚南道、平安南道という、植民地朝鮮における三大都市（京城・釜山・平壤）を擁する道には各2校が配置されている。

一方で私立高等普通学校は、1937年までに11校設立されているが、そのうちの6校が京畿道に集中しており、平安南北道に各1校ずつ、咸鏡南道に1校、全羅北道・慶尚北道に各1校となっている。公私立をあわせた27校の分布状況を見ると、京畿道8校、平安南道3校、慶尚南道・慶尚北道・全羅北道・平安北道・咸鏡南道が各2校ずつで、他の6道には1校ずつしか存在しなかった。

本稿が対象とする慶尚北道の場合、大邱高等普通学校（官立）が1916年に設置された後、1931年になってようやく金泉高等普通学校（私立）が設立されたことになる。

3 青年会運動と高等普通学校設立期成会

(1) 金陵青年会の結成と金陵学院

金泉の朝鮮人青年団体として、1921年8月29日に金陵青年会が結成された¹⁵。同会会長に選ばれたのは当時37歳頃と思われる高德煥である。後の高等普通学校設立期成会の中心メンバーであり、「受任五理事¹⁶」の一人となった人物である。高德煥は、漢城で1884年頃生まれ、1902年に京城学堂を卒業した後、私立学校教師や郡主事（統監府期）、総督府忠州郡書記（併合後）などを経て、1915年頃金泉に「転任」で移り住んだ人物だった。1920年に「官界」から「実業界」に転身し、その後金陵青年会を組織し会長に就任している。『東亜日報』（1925年2月9日）記事によると、「急転する思潮に深く感じるところがあり、日常会う人毎に朝鮮民族の将来のために決起してくださいと懇願してきたが、ついに当地有志達と手と手を取り万難を排し、大正十年八月二九日に金陵青年会を創設すると同時に同会長に被選され」と紹介されている。三・一独立運動後、各地に多くの青年団体が結成されたが、金泉の朝鮮人青年の多くを組織したと思われる金陵青年会の中心人

表2 金泉郡内の初等教育機関状況（1922年）

	校数	生徒数	学校比率	生徒比率
公普	5	1,306	4%	35%
私立各種	4	191	4%	5%
私設学術	23	968		
国語夜学	6	380		
小計	29	1,348	25%	37%
書堂	68	646		
改良書堂	8	195		
小計	76	841	67%	23%
総計	114	3,686	100%	100%

出典：『慶尚北道教育及宗教一斑』1922年版。

注：公立普通学校に付設された明倫学校は、詳細が不明なため、表には含めていない。

15 『東亜日報』1925年2月9日。

16 金泉高普設立に際してつくられた教育財団法人の理事5人に対する呼称。高德煥、金鍾鎬、李漢琪および崔松雪の親族2名で構成された。